

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270800370		
法人名	有限会社 やまさき		
事業所名	グループホームひなたぼっこ(1ユニットめ)		
所在地	〒859-4501長崎県松浦市佐佐町浦免206番地		
自己評価作成日	令和4年1月25日	外部評価結果確定日	令和4年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JkyvosvoCd=4270800370-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JkyvosvoCd=4270800370-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14-12		
訪問調査日	令和4年2月12日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ホームの理念に基づき入居者・家族・職員が共に協力し支え合って一日一日を楽しく安全に過ごして頂けるように取り組んでいる  
 ・平屋でバリアフリーにしており、手すりを多く設置して安全面に配慮している  
 ・提携医療機関との医療連携体制や協力医療機関(内科・歯科)からの医師の往診を実施することで入居者の健康管理に努めている  
 ・スプリンクラーや自動体外式除細動器AED等設置面の充実と共に消防訓練を行い安心して入居生活を送って頂けるよう取り組んでいる

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今回の訪問で特に評価すべき点として3点挙げる。①施設長は他施設の施設長等有志数名とネットワークを構築して、利用者支援の情報共有や職員の処遇面での工夫、福祉用具の共同購入で単価を抑えて利用者負担を減らす等、利用者や職員に有益な協力関係を築いている。②自らの意思をうまく人に伝えることが困難な利用者支援に関して、表情の変化だけではなく皮膚の状況や涙の量等、体のちょっとした変化を見逃さずに状況を察している。これは普段の密な観察無くしてできることではないため、普段の関わり方が緻密であることを裏付けている。③比較的経験の浅い職員のヒアリングの際、職員の指導が行き届いていて、なぜそのようにしたり言ったりするのか詳しく教えてくれるとのことであった。このような丁寧な指導はチームケアの基本的な取組みとして評価できる。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>事業所開設時に経営者と職員が共同で理念を作成したことでその理念を日々のケアに反映しやすく玄関入口や応接間及び事務所内に掲示することで理念の共有をし統一した方針のもとケアにあたっている。</p>	<p>開設時に「ひなたぼっこ」の頭文字を用いて法人の理念を作り、現在まで至っている。利用者一人ひとりが主役で、和気あいあいと穏やかな時間を過ごしてほしいという思いを第一義として、利用者のできることはやってもらい、できないことは皆で補てんしながら生活を支援している。職員間での理念の共有については、特に定期的な機会を設けているというわけではなく、理念に基づく統一した支援ができるように、職員間のLINE(コミュニケーションアプリ)で情報を共有したり、何か課題が生じた際に理念に戻って検討を重ねている。</p>	
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>移動式理髪車や移動式販売車(パン屋)に定期的に来ていただいている。地域の催物を見物に出かけていたが(水軍祭り、文化祭等)コロナ禍で外出できていない。</p>	<p>現在、新型コロナウイルス感染拡大の影響で地域との交流や、地域行事に出向くことができない状況下にある。今後、コロナ禍が明けたら地域の行事の見学に出向いたり、地域住民との交流を再開したいとのことであった。今のところ、地域との交流という視点でいうと、移動式理髪車が2カ月に1回、同じく移動式パン販売車が1週間に1回ひなたぼっこを訪問している。利用者も理髪や購入を楽しみにしているとのことで、感染拡大に留意しながらできる限りのつながりの確保は行っている。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>中学校、高校の課外活動(職場体験学習、交流会)やボランティア等は積極的に受け入れられているがコロナ禍で受け入れできてない。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で会議の開催が出来ていない、ホームで今後の方針等を話し合い議事録を作成し市役所等に報告している。	現在、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、集合型の運営推進会議は実施できず、書面回覧形式で行っている。回覧先はコロナ禍以前に参加していた関係者で変わらないとのことであった。ご家族に関しては、利用料金を敢えてひなたぼっこに持参してもらうようにしているため、この機会に運営の報告を行ったり、逆に意見の聴取を行い運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加している行政の担当職員や生活保護の担当職員とは密に連絡を取っており又居宅介護支援事業所等連絡協議会に参加し情報交換を行っている。	現在、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、以前のように運営推進会議で顔を合わせることはないが、電話連絡等で所管の職員と連携を図っている。また、直接行政職員との関係はないが、施設長は他の施設長等有志と連携を図り、利用者支援のあり方について相談したり、福祉用具を共同購入して利用者負担を少なくする等、自ら協力体制を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	離設等の事故防止の為状況によっては感知センサーを作動させることがあるが日中は玄関は施錠せず開放している。	現在、センサーマットを使用するような利用者はいないということであった。使用する場合は足腰が弱くなって移動が不安定な利用者のフォローを行う目的とのことであった。職員間での身体拘束に関する正しい理解の共有は、身体拘束適正化委員会での活動や記録を通じて行っている。施設長が特に気がけていることは職員のストレスや悩みの緩和や解消で、LINEを介して個別に相談等に行っているとのことであった。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	お互いのケアや言葉遣いを確認し合い改善に努めている又入居者の心身の状態把握に努めその意見に耳を傾けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	開設以来利用したことはないが契約時や入居後に必要であれば関係機関に相談するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にホームの概要やケアの方針等について十分に説明を行い理解、納得をしていただき同意を得ている。入居後の変更事項等は書面と面談による説明にて了解をしていただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に目安箱を設置している。家族の面会時に意見や要望がないか尋ねるようにしている。運営推進会議の家族会代表の方からの意見を拝聴している。	ご家族との接点として、毎月の利用料等を基本的に持参してもらうようにしているため、この機会を利用してお互いに情報を共有している。どうしても来ることができない場合は、LINEを活用して利用者の様子を写真や動画で送って、近況を伝えるようにしている。このような関わりを継続する目的としては、まずは信頼関係を築くことを第一に優先しているためである。施設長の想いとして、特に女性利用者に対して、女性はいつまでも女性なので化粧やマニキュア等おしゃれを続けてほしいという点と、ご家族に対しては、年齢的にも利用者の息子や娘の立ち位置で話を聴いたり伝えたりしていきたいとのことであった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会で意見を出し合いスタッフ間で解決できることは十分に話し合って改善し運営に関する意見や要望は代表者に報告し回答を得ている。	現在、できるだけ密な空間の形成を避けるため、職員間での会議は書面回覧式で行っているとのことであった。利用者の支援に関する情報の共有が中心であるが、機材の購入伺いやハード面等の相談は、施設長に上申して対応を待つが、管理者の話しでは迅速に対応してくれるとのことであった。施設長は定期的な職員との面談はしていない代わりに、LINEを通じて個別に相談に応じているとのことであった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も管理者や職員と共に業務に従事しているため個々の勤務状況を把握できおり給与水準等に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員の研修を積極的に奨励しており、職員の力量を把握し研修参加のアドバイスを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の居宅連絡協に参加したり他のGHの運営推進会議に参加させていただき会議や勉強会で得た情報を活用しサービスの向上に努めている。コロナ禍で他のGHの運営推進会議には出席できていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前訪問や契約時の面談において十分に説明を行うと共に本人や家族から要望、不安等を聴き支援に反映するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談や契約時に要望、不安等を聴き、その思いを把握すると共にホームの概要や入居中の支援及び手続き等について十分説明を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談や電話にて本人や家族の要望を聴き、ホームが提供できる支援を説明し必要があれば他の事業者や医療機関を勧めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食材の下ごしらえ、食後の下膳や食器拭き、洗濯物干しや衣類たたみ手伝っていただいている又職員の見守りの下、他の入居者のお世話をいただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の暮らしの中で入居者本人にとって職員よりも御家族の力を必要とする場合においては面会等の協力をお願いし共に支えていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族だけでなく、入居者の顔なじみの知人や友人の方々の面会をお願いしていたが、コロナ禍で現在はできていない	現在、新型コロナウイルス感染拡大の影響で人と接触するような場所への外出等はできていないが、少人数でのドライブ等を行っている。また、感染者数が著しく増加したコロナ禍にあっても、窓越しの面会は容認してきたため、ご家族や馴染みのある知人等との面会は持続的に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握する事で、職員が過剰に関わる事無く本人の素直な感情判断でお互いに支え合う事ができるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等にて退居された方でも本人、家族の要望があれば再入居に応じている又、入居者が死亡された場合葬儀に参列している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者との関わりの中で本人の希望、意向を汲みとりその実現に努めている。困難な場合は家族に相談し入居者本人が生活しやすくなるよう検討している。	利用者との関わりの中で、コミュニケーションが難しい利用者へのアプローチとして、利用者の顔色、皮膚のハリ、また悲しくて涙を流される方については、詳しく観察して申し送りノートに記載して、職員同士の情報を共有し利用者に寄り添う介護を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に対する入居前の面談それぞれで利用されていた関係機関から情報提供を求め、入居生活の援助に活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の日々の記録や職員間の情報交換及び介護計画の活用により、現状の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネ、計画作成担当者が本人や家族の意向を基に介護計画を立案しスタッフ会議で発表行い他の職員と検討し介護計画を完成させている。	ケアマネージャー、計画作成担当者が作成する中で、医療面から看護師の服薬等についての助言もあり、計画に反映させている。ひなたぼっこでは、利用者の担当職員を決めておらず、すべての職員で利用者の介護を行い、モニタリングについても現在のところ書類の回覧を行っている。ご家族からの要望として入居に当たって、早く生活に馴染むような介護をお願いします等の意見を得ることが出来ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や援助内容及びその結果を個別に記録しその他の情報については口頭での情報交換や申し送りノートを活用し職員間で情報を共有しながらケアの実践や介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の希望に応じ買い物支援を行ったり定期的な床屋の依頼をしたり毎週移動式訪問販売車(パン屋)に来ていただいている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事にはできるだけ参加し地域の方と交流ができるように支援行っていたが現在はコロナ禍で参加はできてない		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同一のかかりつけ医の為毎月訪問診療を受けており状態に応じてスタッフ同行し外来受診している。	毎月、かかりつけ医による訪問診療は、毎回2時間ほどを要し、その記録について申し送りノートに記載されている。ご家族には、利用料金の支払いに毎月来所してお支払いを頂き、施設長が報告し納得して頂いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム在職の看護師が常に日々の入居者の状態把握を行い、随時他の職員との情報交換や指導に努めている。特変があれば協力医療機関に状態報告を行い医師の指示を仰いでいる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的な訪問診療や外来受診に職員が同行し、かかりつけ医や他の病院職員との情報交換を行っており入院時も本人及び御家族の意向を尊重した上で密接に協議を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力医療機関との医療連携体制の中で、重度化終末期対応指針を作成し、契約時、本人や御家族に看取りの支援体制について説明を行い同意を得ている。	入居の時から要介護度4、5の方もおり、入居時に重度化・終末期対応指針を説明している。夜間40度程熱が出る事があり管理者から施設長へ連絡があり、かかりつけ医へ連絡し、救急車を手配し、近くの救急病院へ搬送している。現在のところ看取りを行った事は無いが、今後この指針が整った場合は、再度施設長が利用者ご家族の意向を確認し、医療関係者と話し合いの上対応していくことにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急マニュアルを作成し対応できるようにしている。職員が普通救命講習を受講しており入居者の急変時に対応できるようにしている又、年2回消防訓練を実施しており事故発生等に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	防災マニュアル、自然災害時及び原子力災害時避難計画書を作成し災害時に備え備蓄品を確保している又、消防訓練(年2回)や災害時の避難訓練を行うと共に近隣の住民の方々へ協力依頼を行っている。	コロナ禍における消防計画、防災計画に基づいて年2回避難訓練を実施している。内1回は夜間想定訓練を行っている。 現状では、利用者全員を移動させての訓練は控えて、手順の確認訓練になっている。	火災避難訓練は、年2回行っているものの、地震や水害の災害についての避難訓練や救出訓練が実施されていない為、まず避難訓練における手順を計画し、紙面上における職員行動の工程表を作成し、シミュレーションを行う事を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家庭的な親しみのある言葉がけをするよう心掛けていますが常に相手の反応に注意を払い、気分を害さないように努めている。	利用者への呼び方については、入居時に利用者の生い立ちなどを聞いて、利用者一人ひとりに応じた呼び方をしている。新人職員への教育の実践として、利用者全員の様子をシートに記載しており、新人職員にその都度気づきを記入してもらい、職員全員で情報を共有している。個人情報については、施錠できる事務所にて保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思で自己決定できるような言葉掛けを行い意思表出が困難な方は表情の変化を見て対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の中で、食事や入浴等に関する大まかな決まりはあるが、その他の行動については個々の入居者の判断に委ね、希望があれば可能な限り配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装等職員が買い物支援を行ったり、家族に服装等の購入を依頼している。女性の方にはマニキュアを塗り又2ヶ月に1度美容室から来ていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居時等に嗜好調査を行い嫌いなメニューがある時は代替品を提供している。月に1回は合同での食事会を楽しんでいる。入居者の能力に応じて食材の下ごしらえや後片付け手伝っていただいている。	嗜好調査は、年2回実施している。メニューについては管理者が入利用者から個人的に聞き取りをして栄養士と共に作成している。人気メニューとして、肉、丼物、和食が上げられる。配膳、片付けについては、利用者に応じて職員と一緒にやっている。毎月最終日曜日は、誕生会を開催し、特別なメニューとしてちらし寿司等を楽しんで頂いている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事メニューでは、個々の好みや摂取能力に応じ、代替の献立や、お粥、キザミ食等の調理方法を工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けや介助を行い口腔内の清潔保持に努めている。又、定期的に歯科往診を依頼しており入居者の摂取能力の維持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿便意ある方、ない方その方に応じて個別にトイレ誘導しトイレでの排泄を促している。日々の排泄チェックを行い排泄パターンの把握に努めている	一人ひとりの排泄に関する記録があり、各自の排泄パターンを職員が観察して、トイレへの誘導を行っている。 常時オムツを装着している利用者についてもタイミングを見逃さず、トイレ誘導に心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維や水分を多く摂るようにしている。又、レクレーション時に体操をするよう努めている。必要時には主治医処方の下剤使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週4回お風呂を沸かしてできるだけ個々の希望に沿えるようにしている又入浴拒否がある方は入浴する順番を替えたり介護職員を代えたりタイミングをみて再度声掛けしている。	週2回の入浴について、利用者の希望に添える介護を行っている。 入浴習慣や好みを良く聞いて、シャンプー、リンスなどを使用して楽しく入浴して頂いている。極まれに、入浴を拒否する方は、決められた曜日以外の日に入浴出来るようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を基に自由に過ごしてもらっている。不穏がある方は職員と話をして安心して眠れるようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療機関、薬局からの薬に関する指示や説明書について個別に縦じ誰でも確認できるようにしている。配薬、服薬は名前と日付を確認している。異常の早期発見が出来る様努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者個々の力量に応じて食材の下ごしらえや洗濯物干し衣類たたみ、食後の片付け等の手伝いをお願いしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で戸外に出る機会が減った、密にならない所を選び外出を行った	コロナ禍にあっては、以前のような外出が厳しい状況にある。 ひなたぼっこのテラスを利用して、利用者と日光浴やおやつを食べたり、お茶を楽しんでいる。今後の状況を見て、利用者の買い物等も再開する予定である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物希望があれば職員が同行し出かけている又定期的に行き物ツアーを計画し近くのスーパーへ出かけ買い物支援をしていたがコロナ禍で行けてない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話をして直接話してもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには天窓により自然光を取り入れている壁面には季節に応じて入居者、職員の作品を掲示している。	利用者の不安や動揺を抑える為、さりげなく換気をしている。廊下、洗面台にはカーペットを敷き転倒予防に努めている。 共有スペースには、一部分に畳があり、日頃利用者との作業やくつろぐスペースとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テラスや応接間より景色を眺めたり外の椅子に座りひなたぼっこしたりソファーや畳の間で横になって憩う様子がみられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅等で使い慣れた物や大切にしていた物等を持ち込んでもらい使用してもらっている。	居室の清掃に関しては、職員が毎日行っており清潔さを保っている。室温に関しては一人ひとりの体感温度に合わせて、エアコンの設定温度を、事務所で管理している。必要に応じて空気清浄機を置き、快適に過ごせるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリーで手すりを多く設置しており1人でも各場所へ容易に移動できるようにしている押し車や独歩で移動できる方については見守りをしている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4270800370		
法人名	有限会社 やまさき		
事業所名	グループホームひなたぼっこ(2ユニットめ)		
所在地	〒859-4501長崎県松浦市志佐町浦免206番地		
自己評価作成日	令和4年1月25日	外部評価結果確定日	令和4年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JgyvosvoCd=4270800370-006ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JgyvosvoCd=4270800370-006ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14-12		
訪問調査日	令和4年2月25日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームの理念に基づき入居者・家族・職員が共に協力し支え合って一日一日を楽しく安全に過ごして頂けるように取り組んでいる</li> <li>・平屋でバリアフリーにしており、手すりを多く設置して安全面に配慮している</li> <li>・提携医療機関との医療連携体制や協力医療機関(内科・歯科)からの医師の往診を実施することで入居者の健康管理に努めている</li> <li>・スプリンクラーや自動体外式除細動器AED等設置面の充実と共に消防訓練を行い安心して入居生活を送って頂けるよう取り組んでいる</li> </ul>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所開設時に経営者と職員が共同で理念を作成したことでその理念を日々のケアに反映しやすく玄関入口や応接間及び事務所内に掲示することで理念の共有をし統一した方針のもとケアにあたっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	移動式理髪車や移動式販売車(パン屋)に定期的に来ていただいている。地域の催物を見物に出かけていたが(水軍祭り、文化祭等)コロナ禍で外出できていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学校、高校の課外活動(職場体験学習、交流会)やボランティア等は積極的に受け入れているがコロナ禍で受け入れできてない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で会議の開催が出来ていない、ホームで今後の方針等を話し合い議事録を作成し市役所等に報告している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加している行政の担当職員や生活保護の担当職員とは密に連絡を取っており又居宅介護支援事業所等連絡協議会に参加し情報交換を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	離設等の事故防止の為状況によっては感知センサーを作動させることがあるが日中は玄関は施錠せず開放している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	お互いのケアや言葉遣いを確認し合い改善に努めている又入居者の心身の状態把握に努めその意見に耳を傾けるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	開設以来利用したことはないが契約時や入居後に必要であれば関係機関に相談するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にホームの概要やケアの方針等について十分に説明を行い理解、納得をいただき同意を得ている。入居後の変更事項等は書面と面談による説明にて了解をいただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に目安箱を設置している。家族の面会時に意見や要望がないか尋ねるようにしている。運営推進会議の家族会代表の方からの意見を拝聴している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会で意見を出し合いスタッフ間で解決できることは十分に話し合って改善し運営に関する意見や要望は代表者に報告し回答を得ている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も管理者や職員と共に業務に従事しているので個々の勤務状況を把握できており給与水準等に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員の研修を積極的に奨励しており、職員の力量を把握し研修参加のアドバイスをを行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の居宅連絡協に参加したり他のGHの運営推進会議に参加させていただき会議や勉強会で得た情報を活用しサービスの向上に努めている。コロナ禍で他のGHの運営推進会議には出席できていない。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前訪問や契約時の面談において十分に説明を行うと共に本人や家族から要望、不安等を聴き支援に反映するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談や契約時に要望、不安等を聴き、その思いを把握すると共にホームの概要や入居中の支援及び手続き等について十分説明を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談や電話にて本人や家族の要望を聴き、ホームが提供できる支援を説明し必要があれば他の事業者や医療機関を勧めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食材の下ごしらえ、食後の下膳や食器拭き、洗濯物干しや衣類たたみ手伝っていただいている又職員の見守りの下、他の入居者のお世話をいただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の暮らしの中で入居者本人にとって職員よりも御家族の力を必要とする場合においては面会等の協力をお願いし共に支えていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族だけでなく、入居者の顔なじみの知人や友人の方々の面会をお願いしていたがコロナ禍で現在は行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握する事で、職員が過剰に関わる事無く本人の素直な感情判断でお互いに支え合う事ができるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等にて退居された方でも本人、家族の要望があれば再入居に応じている又、入居者が死亡された場合葬儀に参列している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者との関わりの中で本人の希望、意向を汲みとりその実現に努めている。困難な場合は家族に相談し入居者本人が生活しやすくなるよう検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に対する入居前の面談それぞれで利用されていた関係機関から情報提供を求め、入居生活の援助に活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の日々の記録や職員間の情報交換及び介護計画の活用により、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネ、計画作成担当者が本人や家族の意向を基に介護計画を立案しスタッフ会議で発表行い他の職員と検討し介護計画を完成させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や援助内容及びその結果を個別に記録しその他の情報については口頭での情報交換や申し送りノートを活用し職員間での情報を共有しながらケアの実践や介護計画に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の希望に応じ買い物支援を行ったり定期的な床屋の依頼をしたり毎週移動式訪問販売車(パン屋)に来ていただいている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事にはできるだけ参加し地域の方と交流ができるように支援行っていたが現在はコロナ禍で参加はできてない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同一のかかりつけ医の為毎月訪問診療を受けており状態に応じてスタッフ同行し外来受診している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム在職の看護師が常に日々の入居者の状態把握を行い、随時他の職員との情報交換や指導に努めている。特変があれば協力医療機関に状態報告を行い医師の指示を仰いでいる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的な訪問診療や外来受診に職員が同行し、かかりつけ医や他の病院職員との情報交換を行っており入院時も本人及び御家族の意向を尊重した上で密接に協議を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力医療機関との医療連携体制の中で、重度化終末期対応指針を作成し、契約時、本人や御家族に看取りの支援体制について説明行い同意を得ている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急マニュアルを作成し対応できるようにしている。職員が普通救命講習を受講しており入居者の急変時に対応できるようにしている又、年2回消防訓練を実施しており事故発生等に備えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	防災マニュアル、自然災害時及び原子力災害時避難計画書を作成し災害時に備え備蓄品を確保している又、消防訓練(年2回)や災害時の避難訓練を行うと共に近隣の住民の方々へ協力依頼を行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家庭的な親しみのある言葉がけをするよう心掛けているが常に相手の反応に注意を払い、気分を害さないように努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思で自己決定できるような言葉掛けを行い意思表出が困難な方は表情の変化を見て対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の中で、食事や入浴等に関する大まかな決まりはあるが、その他の行動については個々の入居者の判断に委ね、希望があれば可能な限り配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装等職員が買い物支援を行ったり、家族に服装等の購入を依頼している。女性の方にはマニキュアを塗り又2ヶ月に1度美容室から来ていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居時等に嗜好調査を行い嫌いなメニューがある時は代替品を提供している。月に1回は合同での食事会を楽しんでいる。入居者の能力に応じて食材の下ごしらえや後片付け手伝っていただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事メニューでは、個々の好みや摂取能力に応じ、代替の献立や、お粥、キザミ食等の調理方法を工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けや介助を行い口腔内の清潔保持に努めている。又、定期的に歯科往診を依頼しており入居者の摂取能力の維持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿便意ある方、ない方その方に応じて個別にトイレ誘導しトイレでの排泄を促している。日々の排泄チェックを行い排泄パターンの把握に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維や水分を多く摂るようにしている。又、レクリエーション時に体操をするよう努めている。必要時には主治医処方の下剤使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週4回お風呂を沸かしてできるだけ個々の希望に沿えるようにしている又入浴拒否がある方は入浴する順番を替えたり介護職員を代えたりタイミングをみて再度声掛けを行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を基に自由に過ごしてもらっている。不穏がある方は職員と話をして安心して眠れるようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療機関、薬局からの薬に関する指示や説明書について個別に縦じ誰でも確認できるようにしている。配薬、服薬は名前と日付を確認している。異常の早期発見が出来る様努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者個々の力量に応じて食材の下ごしらえや洗濯物干し衣類たたみ、食後の片付け等の手伝いをお願いしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で戸外に出る機会が減った、密にならない所を選び外出を行った		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物希望があれば職員が同行し出かけている又定期的に買い物ツアーを計画し近くのスーパーへ出かけ買い物支援をしていたがコロナ禍で行けてない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話をして直接話してもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには天窓により自然光を取り入れている壁面には季節に応じて入居者、職員の作品を掲示している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テラスや応接間より景色を眺めたり外の椅子に座りひなたぼっこしたりソファーや畳の間で横になって憩う様子がみられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅等で使い慣れた物や大切にしていた物等を持ち込んでもらい使用してもらっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリーで手すりを多く設置しており1人でも各場所へ容易に移動できるようにしている押し車や独歩で移動できる方については見守りをしている。		